

別表 指定課題一覧表

No	自治体	指定課題
1	静岡市	木造住宅耐震化PRにおける社会学を応用した地域連携の実践
2	浜松市	浜松市天竜区佐久間町における地域づくりの方策の研究
3	沼津市	西浦地区住民との協働による地域課題の分析や活性化策の提言
4	三島市	三島市の国際観光立市の高揚と外国人受け入れに関する研究
5	富士宮市	県外に向けたシティプロモーションの方策の研究
6	島田市	島田市の観光資源を活用した着地型観光商品の開発と効果的な情報発信の手法の研究
7	富士市	若い世代の就職や結婚にかかる意識調査・分析と提言
8	磐田市	多文化共生社会の実現に向けて～互いの違いを認め合えるまちづくり～
9	藤枝市	増加する訪日外客に対応するための魅力的なおもてなし施策
10	袋井市	各種災害に合わせた情報通信網の最適化調査・研究
11	裾野市	富士山麓の地下水の魅力発信
12	伊豆市	2020東京オリンピック開催に向けた効果的なボランティアの募集方法の研究
13	伊豆の国市	「伊豆の国市健康増進計画」評価及び市民アンケート集計・分析
14	川根本町	川根本町の地域特性を活かした景観計画・景観デザインへの提案
15	静岡県	伊豆地域の芸妓文化の継承又は観光への活用

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	静岡市		課題番号	1
課題タイトル	木造住宅耐震化PRにおける社会学を応用した地域連携の実践			

課題の概要(背景や理由等)	平成27年度、木造住宅の耐震化PRのため、すべての連合自治会への紹介を行ってきた。周知が不十分であったことも考えられるが、参加者数は予想より低く、木造住宅の耐震化を進める難しさを実感した。地域の繋がりの在り方が大きく変化する社会環境の中、地域の繋がりそのものを領域とする社会学を活用、実践することで、耐震化率向上ができないかと考えている。研究、実践を行いながら、木造住宅の耐震を進めることで、安心・安全なまちづくりに大きく寄与できると考えている。
希望する調査研究内容や期待すること	①地域における木造住宅耐震化の現状分析 ②現状分析から、社会学を応用した木造住宅耐震化促進の研究 ③新たな取り組みの実践と、結果評価 ④その結果から、地域防災、空家対策等、行政施策への反映検討
情報収集や意見交換等で連携する団体等	建築指導課 想定している民間団体等 自治会、建築関連団体等
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	関係団体の紹介(上記自治会、建築関連団体等) 関係資料の提供

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	静岡大学	学部等	地域創造学環
ゼミ(担当教員)		ゼミ連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	企画課 分権・広域連携推進係
電話番号	054-221-1287
E-mail	kikaku@city.shizuoka.lg.jp
27年度担当者	大城公男

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	浜松市		課題番号	2
課題タイトル	浜松市天竜区佐久間町における地域づくりの方策の研究			

課題の概要(背景や理由等)	<p>浜松の中山間地域である天竜区佐久間町は、浦川歌舞伎や川合花の舞を始めとした民俗芸能等の文化とともに、かつて、海の幸、山の幸を運ぶ「塩の道」となった甲州街道(秋葉街道)が通り栄えていたが、近年は高齢化率及び高齢者のみ世帯率ともに50%を超え、商店の閉店も進み、過疎地域特有の課題を抱えているところである。</p> <p>この課題解決には、行政だけでは限界があり、若い人材や高度な知識を有する地域の大学の協力が必要不可欠である。とりわけ、静岡文化芸術大学 文化政策学部 文化政策学科の船戸ゼミは、中山間地域の研究を専門に行っており、H25は春野地域、H26は龍山地域、H27は佐久間山香・城西地域においてフィールドワークを行い、浜松の中山間地域が抱える課題を調べ、調査報告会を通じて浜松市や地域住民へ課題のフィードバックをはじめ、課題解決に大いに寄与してきた。よって、引き続き佐久間町の調査を行っていただき、とくに次年度は佐久間町佐久間地区における調査をお願いしたい。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<p>進行する過疎化を食い止めるためには、地域の個性や資源を理解し、地域の住民が主体となって、地域の課題解決や地域おこし活動を行うことが非常に重要である。とりわけ、大学生等がその取り組みに携わるとは、都会の若者に地域への理解を促すとともに、地域にとっても、若者が地域に来ることによって生まれる活気や気付きも生じる。</p> <p>既に浜松の中山間地域について研究を進めている静岡文化芸術大学の船戸ゼミには、積極的に現場に入り、フィールドワークを通じて、地域住民や地元のNPOとともに、地域の課題解決に取り組み、佐久間地域の活性化に資する調査・研究を行っていただきたい。</p> <p>特に、春野地域や龍山地域とは異なる佐久間地域の課題の特性や、“歴史と民話の郷”と呼ばれる佐久間地域の豊富な伝統文化についても、研究対象として、新たな北遠地域の可能性が浮かび上がることを期待している。</p>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<ul style="list-style-type: none"> ・浜松市佐久間協働センター ・佐久間地区自治会連合会 ・浜松山里いきいき応援隊 ・地域づくり団体(地域のNPO法人等) など
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<p>市の市民協働・地域政策課や佐久間協働センターが、静岡文化芸術大学の船戸ゼミと佐久間の自治会や地域づくり団体(NPO法人など)との橋渡しを行うとともに、フィールドワークを行うにあたり、市民協働・地域政策課および佐久間協働センター職員、また市が委嘱する浜松山里いきいき応援隊が適宜サポートをすることで、円滑に調査・研究が行われるよう支援する。また、必要に応じ、協働センターの会議スペース等は無償貸与する。</p>

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	静岡文化芸術大学	学部等	文化政策学部
ゼミ(担当教員)	船戸修一	ゼミ連絡先 E-mail	s-funa@suac.ac.jp

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	市民部 市民協働・地域政策課 中山間地域グループ
電話番号	053-457-2243
E-mail	shiminkyodo@city.hamamatsu.shizuoka.jp
27年度担当者	永井 佑典

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	沼津市		課題番号	3
課題タイトル	西浦地区住民との協働による地域課題の分析や活性化策の提言			

課題の概要(背景や理由等)	沼津市の西浦地区は、中心部から車で30分以上離れ、駿河湾に面した急峻な斜面でみかん栽培が盛んな自然豊かな地区であるが、交通事情の不便さや自然災害への不安等もあり、ここ10年で15%以上人口減少するなど過疎化、高齢化が進んでおり、コミュニティの維持や防犯防災の対応、地域福祉の負担増、地場産業や教育現場の課題など、様々な課題を抱えている。地区の方々も危機感を持ち、平成27年度に今後のアクションに向けて独自に住民アンケートを取るなど、動き始めたところである。
希望する調査研究内容や期待すること	地域の現状を実際に見聞きし体験しながら、住民アンケートの結果などを元に、地域課題の分析や、今後の活性化策や移住促進などの提言などをまとめる作業を地域住民の方々と協力しながら行っていただきたい。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	西浦地区過疎化対策委員会、西浦地区連合自治会、西浦地区コミュニティ推進委員会、西浦地区社会福祉協議会、沼津市、JAなんすん、内浦漁協、各種地域グループなど
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	西浦地区センターの部屋確保(会議室や和室などが提供できます) 各種関係団体との連絡調整(ヒアリングや見学などを調整します)

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ(担当教員)		ゼミ連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	沼津市企画部 地域自治課
電話番号	055-934-4716
E-mail	chiiki@city.numazu.lg.jp
27年度担当者	半藤和重

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	三島市		課題番号	4
課題タイトル	三島市の国際観光立市の高揚と外国人受け入れに関する研究			

課題の概要(背景や理由等)	2020年の東京オリンピック自転車競技の開催、韮山の反射炉と富士山の世界遺産登録により三島市はアクセス交通網の要所になり、外人観光客の増加が見込まれる。しかしながら、外国人の対応について、①受け入れ態勢、②外国人目線の「おもてなし」、③外国人に対する街の魅力、④国際都市としての魅力、などが不十分であると考えられる。外国人向けの魅力のある観光資源、おもてなしの手段、などの開発が必須と考えられ、三島市内で外国人と交流を持つ大学との連携により新感覚の資源開発を推進したい。
希望する調査研究内容や期待すること	外国人に対して魅力のある街づくりと資源は何か、どのような「おもてなし」方法をすればよいか、三島市の魅力を効果的に伝える方法と発信手段の追求とモデル手段の開発・試行(ネットによる外国人と外国向け多言語情報発信手段の開発)、外国人おもてなしに対応する人材育成方策などの研究実施と研究成果として具体的な提案を得たい。これまでの与える側の目線で種々制作準備したものと異なる受益者側の目線による観光資源や魅力ポイントの開発、受け入れ方策と国際感覚の人材育成に質する提案を期待する。本課題の推進には日本大学国際関係学部福井ゼミナールと協働としたい。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<ul style="list-style-type: none"> ・三島市観光協会 ・日本大学国際関係学部(福井ゼミナール) ・三島市国際交流協会
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<ul style="list-style-type: none"> ・会議室の貸与 ・関連団体の紹介(駿豆線沿線地域活性化協議会 ほか) ・三島市の観光関連素材、施設の紹介 ・開発成果や調査に関連する試行イベント開催時の協力

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	日本大学	学部等	国際関係学部
ゼミ(担当教員)	福井 千鶴	ゼミ連絡先 E-mail	fukui.chizu@nihon-u.ac.jp

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	産業振興部 商工観光課
電話番号	055-983-2656
E-mail	syoukou@city.mishima.shizuoka.jp
27年度担当者	早川 大紀

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	富士宮市		課題番号	5
課題タイトル	県外に向けたシティプロモーションの方策の研究			

課題の概要(背景や理由等)	富士宮市は地域で昔から食べられていた焼きそばを「富士宮焼きそば」としてブランド化し、全国的にも「富士宮市＝焼きそば」というイメージを作り、地域おこしの成功例となっている。 しかし、各自治体が地域のブランド化に力を入れる中で、焼きそばに次ぐ地域ブランディングの方策が課題となっている。
希望する調査研究内容や期待すること	富士宮市には富士山をはじめ、県内最多の世界遺産構成資産など多くの魅力を有しているが、市内外へのPRも含め素材を生かしきれていない。 焼きそばに次ぐ富士宮市のブランド化のため、若者目線での提案を期待したい。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	富士宮市観光協会 富士宮商工会議所
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	所有施設の無償使用(会議室等) 上記団体等への紹介

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ(担当教員)		ゼミ連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	企画戦略課地域政策推進室
電話番号	0544-22-1215
E-mail	kikaku@city.fujinomiya.lg.jp
27年度担当者	佐野 龍貴

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	島田市		課題番号	6
課題タイトル	島田市の観光資源を活用した着地型観光商品の開発と効果的な情報発信の手法の研究			

課題の概要(背景や理由等)	近年、富士山静岡空港の開港や新東名の開通など、国内外からのインバウンド効果による、観光交流人口の増加が期待されている。また、観光客のニーズも、定番の観光施設をバスで周遊する発地型から、そこでしか体験できない着地型観光にシフトしている。そうしたトレンドに対応するため、島田市ならではの着地型観光商品の開発や、事業者間の連携促進、効果的な情報発信が求められている。
希望する調査研究内容や期待すること	市内には、島田市には、蓬莱橋、大井川鉄道SL、温泉など、観光振興につながる観光資源が数多くある。また、お茶をはじめとした農産物、和菓子、お酒などの地場産品も数多くある。このような島田市ならではの観光資源を活用した着地型観光商品のアイデア出しや、観光をキーワードにした事業者間連携の促進、また、観光交流人口増加を目指すための情報発信の手法の研究に期待したい。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	島田市産業観光部観光課、同農林課、同商工課、市長戦略部広報課 島田市観光協会、NPOまちづくり川根の会、島田市地域おこし協力隊、 島田商工会議所、島田市商工会など。
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	会議室は市で用意可能。

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ(担当教員)		ゼミ連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	島田市産業観光部観光課
電話番号	0547-36-7163
E-mail	kankou@city.shimada.lg.jp
27年度担当者	森川利久

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	富士市		課題番号	7
課題タイトル	若い世代の就職や結婚にかかる意識調査・分析と提言			

課題の概要(背景や理由等)	人口減少に伴い、市では総合計画や創生総合戦略において、結婚から子育てに至る切れ目のない支援や若い世代の移住・定住施策などを位置付け実施している。しかし、【若い世代の人口確保】は、特効薬がなく、常に、新たな取組の研究や試行が必要である。その一環として、若い世代でありこれから社会にでていく現役の学生の就職や結婚に関する意識を理解する必要がある。
希望する調査研究内容や期待すること	若い世代の移住・定住や結婚・出産などを促進するための新規取組につながるアンケート調査及び提言を希望する。具体的には、 ・静岡に居住し大学生生活を過ごしている現役大学生の持つ、就職や結婚にかかる意識調査及びその結果の分析や考察 ・結果分析・考察から考えられる、若い世代の定住や結婚に繋がるような取組案や提言を求める。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	特になし
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	・会議室の貸与 ・調査アンケート設定に対する助言等 ・富士市内経済団体、NPO団体等関連する団体の紹介 その他、可能な限り必要とする支援をします

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ(担当教員)		ゼミ連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	富士市 (総務部企画課)
電話番号	0545-55-2718
E-mail	so-kikaku@div.city.fuji.shizuoka.jp
27年度担当者	清 聡美

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	磐田市		課題番号	8
課題タイトル	多文化共生社会の実現に向けて～互いの違いを認め合えるまちづくり～			

課題の概要(背景や理由等)	外国人の永住・定住化が進み、多文化共生社会の実現は自治体にとって喫緊の課題となっている。磐田市多文化共生推進プラン(以下「プラン」という。)策定から9年が経過し、外国人受け入れ体制は整備されつつあり、外国人特有のトラブルも表面化していないことから、一定の成果を得ることができた。 しかしながら、日本人市民と外国人市民の間には依然として「文化の違い」という見えない壁が存在し、あたらずさわらずの関係が続いている。
希望する調査研究内容や期待すること	【希望する調査研究】 磐田市が実施してきた多文化共生推進施策の検証並びに外国人・日本人市民多文化共生意識調査の結果(平成27年度実施済)を基とした、多文化共生推進施策の研究。 【期待すること】 文化の交流や理解など、本質的な多文化共生を推進するため、次期プランの策定に専門知識を有する大学(ゼミ)からも提案をいただきたい。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	・磐田市多文化共生社会推進協議会【自治会、学校、企業、国際交流団体など】 ・多文化共生プラン推進委員会【庁内組織】 ・その他、連携が必要と考えられる団体
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	・外国人・日本人市民多文化共生意識調査結果(平成27年度実施済) ・会議室及び印刷・製本機の貸与 ・関連団体の紹介

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	静岡文化芸術大学	学部等	国際文化学科
ゼミ(担当教員)	池上 重弘	ゼミ連絡先 E-mail	053-457-6156 ikegami@suac.ac.jp

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	市民活動推進課 協働・共生社会推進グループ
電話番号	0538-37-4710
E-mail	shimin-katsudo@city.iwata.lg.jp
27年度担当者	金子 博則

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	藤枝市		課題番号	9
課題タイトル	増加する訪日外客に対応するための魅力的なおもてなし施策			

課題の概要(背景や理由等)	海外における訪日需要の高まりによる訪日外客数は、2015年末で1973万人を超えた。 また、富士山静岡空港においても、中国路線の増加などの要因により、入国する訪日外客数は、増加している。 2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催を控えるなど、今後も訪日外客数の増加が見込まれる中、来訪者が安心して訪れられる環境整備、市をあげたおもてなし態勢の整備が急務である。
希望する調査研究内容や期待すること	外国人に選ばれる魅力的なおもてなし施策の調査研究 ・訪日外客に対して求められるサービスについて、留学生からアンケート調査し、おもてなし施策の提案 (ゼミに留学生が所属している場合は、その学生との情報交換を期待) ・施策検討時に藤枝市が設置した「おもてなし強化チーム」構成団体と意見交換
情報収集や意見交換等で連携する団体等	藤枝市が設置した「おもてなし強化チーム」構成団体
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	会議室の貸与 関連団体の紹介

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ(担当教員)		ゼミ連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	藤枝市企画財政部連携交流課
電話番号	054-643-3229
E-mail	renkei@city.fujieda.lg.jp
27年度担当者	松浦寿彰、卞暢希

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	袋井市		課題番号	10
課題タイトル	各種災害に合わせた情報通信網の最適化調査・研究			

課題の概要(背景や理由等)	現在、袋井市では、災害時の関係機関との通信手段として、デジタル防災無線(音声・FAX)を利用し、市民へは同報無線及びメローねっと(登録制メール)などを利用している。 しかし、日常ではスマートフォン・タブレットの普及やクラウド技術の発達に伴いデータ通信の利用が拡大しており、災害時においてもそれら技術の活用が期待されている。
希望する調査研究内容や期待すること	地震などの広域災害と土砂災害などの局所災害では、有効な通信技術が異なると想定されるため、それらの整理と高等教育機関の持つ最新技術の見地から、今後、自治体に求められる情報通信網(ソフト・ハード)を明らかにしたい。 また、災害時に使用するという特殊性から、端末の操作性や導入コスト・平時の運用コストの低減、停電時の対応なども求められることから、それら課題の整理と対応策について検討したい。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	静岡県、岩沼市、鯖江市、現在利用している通信技術関連事業者
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	会議室の提供、関連団体の紹介、防災訓練への参加等

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ(担当教員)		ゼミ連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	企画政策課 企画室(防災課 防災計画係)
電話番号	0538-44-3105(0538-44-3360)
E-mail	kikaku@city.fukuroi.shizuoka.jp
27年度担当者	萩田啓高(鈴木和宏)

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	裾野市		課題番号	11
課題タイトル	富士山麓の地下水の魅力発信			

課題の概要(背景や理由等)	裾野市では、当市の地下水を原水とした「裾野の水」をペットボトル飲料水として販売している。 世界遺産富士山の地下水というネームバリューがあり、飲料メーカー等食品製造業の進出があるものの、その魅力を活かした情報発信の手法は十分とは言えない。そのためには、当市の地下水の優位性を高め、他地域や海外ブランドの水と差別化を図る必要がある。
希望する調査研究内容や期待すること	①富士山麓の自治体から、原水サンプルを取り寄せ、成分調査・比較対照を行うなど、富士山麓の湧水の魅力をデータ化し、海外ブランド等との差別化を図る。 ②地下水を原料としている食品製造事業所等を調査し、当市の地下水の優位性・価値を高める。 ③効果的な情報発信手法とマーケティング方法の調査研究。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	裾野市消費生活センターでは、「裾野市の水」対「他社の水」でのおいしさ比べを試飲により実施している事例がある。県東部では比較的地下水を使用している自治体が多いなか、静岡県東部4市2町水道事業研究会が組織されており、PRに活用されているペットボトル飲料水も多い。サンプル提供や原水採取等連携、意見交換が可能。簡水事業体や地下水を利用したペットボトル飲料水製品を作っている企業との連携。
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	原水の提供。 井戸情報の提供。 地下水採取企業との連携。 ファルマバレーセンターへ相談可能。

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ(担当教員)		ゼミ連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	裾野市 環境市民部 上下水道課 経営管理室
電話番号	055-995-1890
E-mail	suido-so@city.susono.shizuoka.jp
27年度担当者	室長 山田 克彦

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	伊豆市		課題番号	12
課題タイトル	2020東京オリンピック開催に向けた効果的なボランティアの募集方法の研究			

課題の概要(背景や理由等)	2020年東京オリンピックの自転車競技(トラック・MTB)の開催が伊豆市にある日本サイクルスポーツセンター内の「伊豆ベロドローム」と「伊豆マウンテンバイクコース」に決定しました。大会運営には多くのボランティアの力を借りなければなりません。必要とされる特技(外国語、案内等)を持った人と人数が集まるボランティアの募集方法やボランティアを行う動機づけ(インセンティブ)が必要となっている。
希望する調査研究内容や期待すること	年代別、性別ごとのアプローチの方法と動機づけの具体的内容
情報収集や意見交換等で連携する団体等	伊豆市役所、日本サイクルスポーツセンター、2016アジア自転車競技選手権大会ボランティアの方
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	会議室の貸与、連携する団体との連絡調整

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ(担当教員)		ゼミ連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	産業振興課
電話番号	0558-72-9910
E-mail	sangyo@city.izu.shizuoka.jp
27年度担当者	山下 芳之

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	伊豆の国市		課題番号	13
課題タイトル	「伊豆の国市健康増進計画」評価及び市民アンケート集計・分析			

課題の概要(背景や理由等)	伊豆の国市健康増進計画、食育推進計画、歯科保健計画の期間が平成28年度末で満了する。その間、さまざまな事業を実施してきた。その成果を検証し、次期計画へその結果を盛り込み、市民が生涯にわたり生きいきと暮らしていけるよう、伊豆の国市の健康づくりの実践的な取り組みを進めていくための計画を策定する。
希望する調査研究内容や期待すること	伊豆の国市健康増進計画、食育推進計画、歯科保健計画の評価及び市民アンケート集計・分析
情報収集や意見交換等で連携する団体等	伊豆の国市健康づくり推進協議会 伊豆の国市歯と口腔の健康づくり推進委員会
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	会議室の貸与 関連団体の紹介

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ(担当教員)		ゼミ連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	健康づくり課健康マネジメント係
電話番号	055-949-6820
E-mail	kenkou@city.izunokuni.shizuoka.jp
27年度担当者	曾根原英雄

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	川根本町		課題番号	14
課題タイトル	川根本町の地域特性を活かした景観計画・景観デザインへの提案			

課題の概要(背景や理由等)	本町は景観に関する規定を設けていない。これまで無秩序な開発や著しく景観を損ねる建築物、構造物、看板等は建設・設置されていないが、今後、本町の有する豊かな自然景観、多様な茶園景観などの地域特性を活かしつつも、秩序ある景観形成、土地利用へ誘導する施策が必要であると考えことから、平成28・29年度の2ヶ年度をかけて、景観計画を策定する予定である。
希望する調査研究内容や期待すること	本町における景観資源の洗い出し、住民意向調査のサポートや環境町民会議へのオブザーバーとしての参画を通じた地域特性を活かした景観デザインやデザインコードの提案。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<ul style="list-style-type: none"> ・川根本町土地利用対策委員会 ・川根本町環境町民会議 ・千年の学校
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<ul style="list-style-type: none"> ・会議室の貸与 ・関連団体の紹介

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	静岡文化芸術大学	学部等	デザイン学部
ゼミ(担当教員)	黒田 宏治	ゼミ連絡先 E-mail	053-457-6197

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	川根本町企画課環境室
電話番号	0547-56-2221
E-mail	kikaku@town.kawanehon.lg.jp
27年度担当者	梶山

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	静岡県		課題番号	15
課題タイトル	伊豆地域の芸妓文化の継承又は観光への活用			

課題の概要(背景や理由等)	<p>伊豆地域においては、「熱海おどり」、「伊東お座敷文化大学」、「あやめ座芸妓まつり」などを開催し、芸妓文化を一般に伝える取組を行っている。</p> <p>しかし、最盛期に比べると現在では芸妓が呼ばれる宴席が減少し、芸妓の数も大きく減少している。</p> <p>芸妓は、温泉旅館等において、日本舞踏や三味線などの音曲・鳴物により、宿泊者等をもてなしており、特に外国人観光客の誘客を図る上での大きな魅力となり得るものである。</p> <p>このため、伊豆地域において芸妓文化を継承していくための方策を検討していただきたい。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<p>次のうちいずれか(両方とも取組んでいただけるとなお良い)</p> <p>○芸妓文化の継承 芸妓はおもてなし文化の一形態として価値があるものだと、県民に認知してもらい、後世に継承していくための方策</p> <p>○観光資源としての芸妓文化の活用 芸妓による舞踊や音曲をはじめ、和食や着物、立ち居振る舞いなど、日本独特の文化を、特に外国人観光客向けの観光資源として活用するための方策</p>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	関連団体の紹介(各市観光協会、県文化協会など)

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ(担当教員)		ゼミ連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	静岡県文化・観光部総合教育局大学課
電話番号	054-221-3275
E-mail	daigaku@pref.shizuoka.lg.jp
27年度担当者	法月 江美子